

令和2年度 「古文書を読む」（初級編） 実施報告

- 1 講座のねらい 本講座は、参加者が古文書を読む楽しさに触れることにより、古文書や歴史に対する興味・関心を高めてもらうことを目的とする。
- 2 実施状況 市川超大氏を講師に以下の日程で実施した。
第1回 9月 5日（土） 午前10時～12時
第2回 10月17日（土） 午前10時～12時
第3回 11月21日（土） 午前10時～12時
テキストは高札および尾崎家御家訓（共に当館蔵）を使用し、最初はひらがなのくずし字を元の漢字と対比させながら学習し、古文書解読辞典の使い方を学んだ。2回目以降は実際の古文書を自分で辞典を引きながら解読し、講師が文書の意味と時代背景まで解説した。

3 講座の様子



4 参加者の声

- ・講師の話し方も聞きやすかったです。
- ・2回目でしたが、1回目の文字が出てきて少し読んだという気持ちになりました。
- ・早速解読辞典を買い求めました。自分で調べてみるというのが良かった。
- ・ますます古文書に興味が出てきました。次回のチャンスまでもう少し勉強してきます。
- ・だんだんとむずかしくなりましたね。和歌のひらがなが読めるといいなあ。
- ・文字のくずし方が多すぎて戸惑いました。もっと文字のくずし方の解説をお願いします。

5 成果と課題

今回はコロナウイルス感染拡大防止のため、入門編が実施できなかったため、ごく基本的な文字の解説から始めた。学習の進度は遅くなったが、その分わかりやすくなり多くの人が古文書に親しみを持ってもらえた。

参加者によって理解が異なるため、回数が進むと理解度に差が大きくなる。各個人に合った講座の進め方にするのは課題である。